

AYAがん支援チーム

をご存じですか？

AYA世代(15歳～40歳未満)は、学業、就職、結婚・出産、育児、など様々なライフイベントが起きる時期であり、チームで支援していただける体制を整えました。

例えばどんなことができますか？

- 妊孕性温存療法に関する情報提供
- 心理的支援
(心理士によるカウンセリングや看護師面談)
- アピランス(外見)ケア
(例えばウィッグやメイクに関する情報など)
- お子さんへの病気の伝え方
- 治療と仕事の両立支援
- 副作用への対処法
- 経済的な問題への支援
- 遺伝性腫瘍に関する情報提供
- 助成金や制度のご案内など

どのようにしたら支援が受けられますか？

窓口はがん相談支援センターです。



一緒に知ろう
共に語ろう

AYA世代のがんのこと



AYAがんの医療と支援のあり方研究会(AYA研)が運営する情報サイトです。AYA世代のがんに関する情報やがんを経験したAYA世代とそのそばにいる人の声が掲載されています。ぜひ参考にしてみてください。



公認心理師 杉



NSW 加藤



Dr. 白山

AYAがん支援チーム

できました



Dr. 野間



NS 橋本・迎川・前河内
(がん相談) (緩和ケア)

A Adolescent

Adolescent and
Young Adult

Y Young

(思春期・若年成人)

A Adult

主に15歳～40歳未満の世代の
がん患者さんの支援チーム

AYA世代のがん患者の、多様なニーズ支援する活動をします。
就労、妊孕性、子や親への支援をなど
様々な悩みへアプローチします。

メンバーはどんな人がいますか？

医師・看護師・ソーシャルワーカー・心理士
などです。必要に応じて、生殖医療科ス
タッフや小児専門看護師、精神科医師・薬
剤師等さまざまな職種でサポートします。



イメージキャラクター
あやまるです

どんなことでも結構です。
悩みや不安をお聞かせくだ
さい。

がん患者が利用可能な公的制度(20歳以上)

	制度名	申請窓口	対象者・申請時期
費用負担軽減	高額療養費制度	健康保険組合	1か月の医療費自己負担額が基準額を超えた場合 限度額適用認定証・多数該当・院外処方合算申請
	高額医療・高額介護合算制度	各市町村介護保険窓口	毎年8月～1年間の医療保険と介護保険の自己負担額の合計が基準額を超えた場合償還払い
	身体障害者手帳	各市町村障害福祉担当	人工肛門・人工膀胱を造設した場合など。障害が固定したと判断された時。ストーマ装具の購入費補助等。
所得補償	傷病手当金	会社が加入している健康保険組合	連続する3日間を含み4日以上出勤困難だった場合 標準報酬日額の2/3相当の額。支給期間は最長1年6か月。
	障害年金	年金事務所	初診時から1年6か月経過後 人工肛門造設の場合は、装着日から6か月後。身体状況、加入年金により支給額が変わる。
生活保障	生活保護	各市町村福祉事務所	他の制度を利用しても生活費が生活保護法で規定する最低補償費に満たない場合。

広島県が独自で実施している助成制度

費用負担軽減	広島県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業	県健康づくり推進課	将来子供を産み育てることを望むがん患者に妊孕性温存治療及び温存後生殖補助医療に要する費用の一部に対して助成金を交付。
	広島県がん患者ウィッグ購入費助成事業	県健康づくり推進課	がん治療による脱毛で外見の変化を補完するためにウィッグを購入した場合に購入費用の1/2を助成。上限5万円

がん専門医よろず相談所

主治医に聞きたいけれど聞けないことや、主治医以外の医師の意見を聞いてみたい方などへ医師が相談に応じます。

相談医

栃木県がんセンター名誉所長
児玉 哲郎 医師

日程

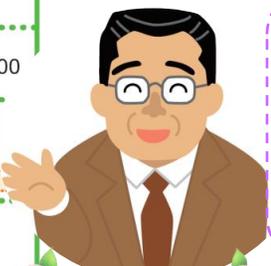
毎週 **火** 曜日 13:15～17:00

方法

面談(予約制)
電話でお申し込みください
オンラインによる相談も可能です

対象

がんと診断された方、ご家族
※当院を受診していない方も
利用できます



よろず相談を受けた方からの感想

- ・専門家の意見をお聞きすることができ、非常に知見が深まり、精神的にも楽になりました。
- ・がんに一度かかると、次々と心配なことが重なってくる。そういう時、このように安心して相談できるところがあるということは本当にありがたいことだと深謝している。

がんピア・サポーター

コラム

広島県立病院がんピアサポーターの山口です。

私は10年前に乳がんにかかりました。医療従事者ではありません。がんという病気を体験したピア(仲間)です。私はがんと診断されてから、『何で自分が』『何か悪い事をしたのか』『この先どうなるのか』と不安、怒り、悲しみ、憤り、落胆、絶望感など、次々に襲ってくる気持ちに押し潰されそうになりとても苦しかったです。私は『こんな私の気持ち、誰もわかるものか』と思っていました。ある時、同じ乳がん患者の方とお話する機会がありました。その方は私と同じ気持ちをお持ちの方で、私はその方に少しだけ病気の話をしました。その方は静かに私の話を聞いてくれました。なぜか安心して話せました。1人ではない、共感してくれる人がいる。それからはずこし前向きになれた気がします。苦しい気持ちはどう表現していいかわからないし、頭が混乱してどうすればいいかわからなくなることは決して特別な事ではありません。そんな時、身近な人に話を聞いてもらうだけで、寄り添ってもらうだけで、心が安心します。辛い時、どうか1人で悩まないでください。当院には『がんピアサポーター』がいて、同じ悩みを持っている方と交流会を行っています。いつでもあなたをお待ちしています。あなたと共に『がんピアサポーター』はいます。

山口さんは、お仕事を続けながらピアサポーターとして活動してくれています。



問い合わせ・お申込み先：がん相談支援センター082-256-3561